

最近のWTO農業交渉における議論

平成18年12月
農林水産省

1. ラミー事務局長主催 非公式貿易交渉委員会(11月16日)

ラミーから、以下のような発言。

来春までに進展がなければ来年中に交渉をまとめることは困難。

各交渉議長は各交渉分野においてそれぞれの事情に応じた適切な方法での接触や協議を進めていくべき。

今は「静かな外交」と「本格的な交渉」との中間点。

閣僚レベルの関与はまだ早く、別の適当な時が来るまで待つべき。

2. ファルコナー議長主催 非公式農業首席代表者少数国会合(11月21日)

ファルコナーの提案に基づき、今後のプロセスについては以下のとおりとされた。

年内にあと数回会合を行い、その後、透明性確保のための会合、告白セッションを行った上で、非公式特別会合を1回開催。

ファルコナーは、前回(6月)の参照ペーパーをより圧縮した新たなペーパーを作る意向。

3. ファルコナー議長主催 非公式農業少数国大使会合(11月29日)

市場アクセスと国内支持のバランス、貿易歪曲的国内支持の全体的削減の水準と新青の政策についての追加的規律との関係、品目別AMS上限を設定するための基準期間(95～00年又は99年～01年)などについて議論。

4. ファルコナー議長主催 非公式農業少数国大使会合(12月6日)

関税の平均削減率、最高位階層の削減率、重要品目、上限関税などについて議論。

ファルコナー等から、G10提案の関税削減率を採用することは大変厳しいとの意見。我が国からは、G20提案は基準にできず、輸出国、輸入国双方の歩み寄りの努力が必要であること、重要品目について輸入国のセンシティブリティが十分反映されるべきこと等を主張。

5 . ファルコナー議長主催 非公式全体会合(12月11日)

加盟国に現在の少数国非公式会合における議論の状況を説明し、透明性の確保を図った。なお、ファルコナーは、年内に新たなペーパーは出さず、年内の少数国会合は12月12日を最後とし、来年再開したいと言及。

6 . ファルコナー議長主催 非公式農業少数国大使会合(12月12日)

最高位階層の削減、重要品目、関割拡大のベース（輸入量又は消費量）などについて議論。来年は1月22日の週に国内支持、市場アクセス及び輸出競争について議論の予定。